

**平成28年度
箕面市上下水道施設整備基本・実施計画
進捗状況評価書**



平成29年（2017年）1月
箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会

箕面市上下水道施設整備基本・実施計画の進捗状況評価について

1 はじめに

箕面市上下水道局においては、平成 19 年度(2007 年度) に、箕面市上下水道事業の「基本理念」や「めざす姿」、その実現に向けた「目標」や「取組項目」を示した「箕面市上下水道事業経営ビジョン」を、平成 23 年度(2011 年度) には、なお一層の経営改革を推進するため、「箕面市上下水道事業経営改革プラン」を、平成 26 年度(2014 年度) には、「箕面市上下水道事業経営ビジョン」「箕面市上下水道事業経営改革プラン」において掲げる目標を実現し、効率的・効果的に上下水道施設・管路の耐震化・更新と維持管理をすすめるために、「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」(以下「基本・実施計画」といいます。) を策定されました。

上下水道事業については、これまで「箕面市上下水道事業経営改革プラン」に基づき進捗状況を把握し、評価を行ってきましたが、平成 27 年度から「基本・実施計画」がスタートしていることや、特に水道事業においては、「箕面市上下水道事業経営改革プラン」の最終年次である平成 32 年度(2020 年度) の目標である料金回収率 100% をほぼ達成されたことなどを踏まえ、本年度からは、「基本・実施計画」に基づき、進捗状況の報告を受け、現状分析と評価を行うものです。

2 評価方法

箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会では、以下の各項目について、上下水道局から報告を受け、その結果を踏まえ、箕面市上下水道施設整備基本・実施計画評価委員が評価し意見を付しています。

- ◇業務量
- ◇料金（経費）回収率
- ◇損益
- ◇施設整備状況
- ◇企業債残高
- ◇資金残高

3 水道事業

(1) 業務量

現状分析

平成 27 年度末の給水人口は、135,413 人で平成 26 年度末の 135,021 人と比較すると、392 人の増加となっていますが、計画値 137,512 人と比較すると 2,099 人見込みを下回っています。

平成 27 年度の有収水量は 14,063 千m³で、平成 26 年度の 14,054 千m³と比較すると 9 千m³の増加となっていますが、計画値 14,495 千m³と比較すると 432 千m³見込みを下回っています。

平成 27 年度の一人一日平均有収水量は 284ℓで、平成 26 年度の 285ℓと比較すると 1ℓの減少で、計画値 288ℓと比較すると 4ℓ見込みを下回っています。

評価・意見

○給水人口については、増加傾向にあるとはいえ、計画値を下回っており、一人一日平均有収水量は見込み以上に減少していることから、有収水量は人口が増加しているほど伸びていません。人口や平均有収水量の動向については、今後も慎重に注視するよう努め、計画と大きな差異が生じる場合など必要に応じ計画の見直しを検討してください。

(2) 料金回収率（メーター使用料除く）

現状分析

1 m³当たりの平均水道料金（料金単価）が水道水 1 m³当たりのコスト（給水原価）に占める比率である料金回収率については、平成 27 年度は 104.03% で、平成 26 年度の 99.95% と比較すると、4.08 ポイントの改善となっており、計画値 101.02% と比較すると 3.01 ポイントの改善となっています。

料金回収率の構成要素である料金単価と給水原価のうち、給水原価については、収納業務の委託による人員削減などにより、157.22 円と、平成 26 年度の 164.08 円と比較すると 6.86 円の減少、計画値 159.78 円と比較すると 2.56 円の削減となっています。

また、料金単価については、163.55 円で、平成 26 年度の 164.00 円と比較すると 0.45 円の減少で、これは、一人一日平均有収水量、ひいては使用者一人当たりの使用水量が減少したことにより、有収水量のうち、料金が

低い水量ランクで料金徴収する水量の割合が増加したためです。なお、計画値 161.41 円と比較すると 2.14 円見込みを上回っています。

評価・意見

- 給水原価を大幅に圧縮し、その結果として、料金回収率 100%以上を達成したことは、収納業務の委託化も含め、これまでの経費削減の成果によるものと評価しています。
- 料金単価については、各使用者ごとの使用水量に影響を受けます。平成 27 年度決算における料金単価は計画値を上回っていますが、今後、計画での見込みを超えて使用水量の減少が進む事態になれば、収支見通しにも大きく影響を及ぼすことから、「業務量」でも述べましたが、平均有収水量の動向については、引き続き十分注視してください。

(3) 損益

現状分析

平成 27 年度の損益については、381,333 千円の黒字で、平成 26 年度の 143,224 千円と比較すると 238,109 千円の増加となっており、計画値 204,605 千円と比較すると 176,728 千円見込みを上回っています。

まず、収入については、2,621,406 千円で、平成 26 年度の 2,605,208 千円と比較すると 16,198 千円の増加となっており、計画値 2,590,671 千円と比較しても 30,735 千円見込みを上回っています。その主な要因として、納付金が 164,030 千円で、平成 26 年度の 146,020 千円と比較すると 18,010 千円の増加で、計画値 97,340 千円と比較すると 66,690 千円見込みを上回っていることがあげられます。なお、給水収益については、2,333,854 千円で、平成 26 年度の 2,337,901 千円と比較すると、4,047 千円の減少で、計画値 2,373,261 千円と比較すると 39,407 千円見込みを下回っています。これは、先ほど「料金回収率」でも触れた料金単価の減少によるものです。

次に、支出については、2,240,073 千円で、平成 26 年度の約 2,461,984 千円と比較すると 221,911 千円の減少となっており、計画値 2,386,066 千円と比較しても 145,993 千円見込みを下回っています。その主な要因として、人件費が 263,353 千円で、平成 26 年度の 361,685 千円と比較すると

98,332 千円の減少で、計画値 287,836 千円と比較すると 24,483 千円見込みを下回っていること、その他支出が 175,289 千円で、平成 26 年度の 374,107 千円と比較すると、198,818 千円の減少で、計画値 249,583 千円と比較すると 74,294 千円見込みを下回っていることがあげられます。

評価・意見

○給水収益については、まず、1 点目として、引き続き、水道利用者を的確に捕捉し、滞納対策を着実に実施することで、収納率の向上を図るとともに、凍結や漏水についての啓発を充実するなど無収水量の削減を図り、料金収入の確保に努めてください。2 点目として、給水収益は、一人一日平均有収水量や料金単価に影響されることから、これらの指標を注視しながら、今後の動向を注意深く見守り、収益の安定性を見極める努力を継続してください。

○納付金については、開発、建築の件数で左右されるため、年度ごとに増減が生じることは一定やむを得ないものですが、引き続き収入の確保に努めてください。

○収納業務の委託などによる人件費の削減については、評価しています。ただし、職員の減少により、市民、事業者に対する業務および事業体としての技術力維持に支障が出ないよう、引き続き、業務の見直しやバランスのとれた職員配置など体制強化の工夫をしてください。

(4) 施設整備状況

現状分析

「基本・実施計画」において平成 27 年度に実施することを予定されていた建設改良事業については、P. 16 のとおりで、概ね計画通りの進捗状況となっています。

評価・意見

○市民の生活や経済活動を支えるライフラインの一つとして、災害時にも安定的な給水を行うことができるよう、「基本・実施計画」に基づき、老朽管路の更新や耐震化を着実にすすめるとともに、予定外の建設改良事業の必要性が生じた場合にも対応できるよう、健全経営と技術力の確保に努めてください。

(5) 企業債残高

現状分析

平成 27 年度における企業債の借入額は 250,000 千円、償還額は 324,243 千円、残高は 3,315,746 千円で計画どおり推移しており、平成 26 年度残高 3,389,990 千円と比較すると 74,244 千円圧縮されています。

評価・意見

○今後も引き続き、企業債の借り入れについては、元金償還額の範囲内とすることを遵守し、元金を減少させ、支払利息の軽減を図ってください。

(6) 資金残高の状況

現状分析

平成 27 年度における資金残高は 1,944,795 千円で、平成 26 年度の 1,787,528 千円と比較すると 157,267 千円増加しており、計画値の 1,593,367 千円と比較すると 351,428 千円上回っています。

評価・意見

○今後も引き続き、健全経営に努め、将来の資金需要に備えてください。

4 公共下水道事業

(1) 業務量

現状分析

平成 27 年度末の水洗化人口は、135,291 人で平成 26 年度末の 134,899 人と比較すると、392 人の増加となっていますが、計画値 137,421 人と比較すると 2,130 人見込みを下回っています。

平成 27 年度の有収汚水量は 14,133 千m³で、平成 26 年度の 14,091 千m³と比較すると 42 千m³の増加となっていますが、計画値 14,513 千m³と比較すると 380 千m³見込みを下回っています。

平成 27 年度の一人一日平均有収汚水量は 285l で、平成 26 年度の 286l と比較すると 1l の減少で、計画値 288l と比較すると 3l 見込みを下回っています。

評価・意見

○水道事業と同様、人口や平均有収汚水量の動向を注視するよう努め、計画と大きな差異が生じる場合など必要に応じ計画の見直しを検討してください。

(2) 経費回収率

現状分析

1 m³当たりの平均下水道使用料（使用料単価）が汚水 1 m³当たりの処理コスト（処理原価）に占める比率である経費回収率については、107.01%で、平成 26 年度の 108.63%と比較すると、1.62 ポイントの低下ですが、計画値 105.00%と比較すると 2.01 ポイントの見込みを上回っています。

経費回収率の構成要素である使用料単価と処理原価のうち、処理原価については、101.12 円で、平成 26 年度の 99.61 円と比較すると 1.51 円の増加ですが、計画値 101.86 円と比較すると 0.74 円見込みを下回っています。なお、使用料単価については、108.21 円で、平成 26 年度と同額ですが、計画値 106.95 円と比較すると 1.26 円見込みを上回っています。

評価・意見

○水道事業と同様、人口や平均有収汚水量の動向を注視するとともに、平成 28 年 4 月から下水道使用料を一戸当たり年間平均 912 円（税抜き）値下げしていることを踏まえ、使用料単価の推移についても留意してください。

(3) 損益

現状分析

平成 27 年度の損益については、235,158 千円の黒字で、平成 26 年度の 232,400 千円と比較すると 2,758 千円の増加となっており、計画値 151,045 千円と比較すると 84,113 千円見込みを上回っています。

まず、収入については、1,830,796 千円で、平成 26 年度の 1,813,061 千円と比較すると 17,735 千円の増加となっており、計画値 1,809,090 千円と比較しても 21,706 千円見込みを上回っています。その主な要因として、流域下水道事業費負担金精算金などを含むその他負担金ほかが 301,523 千円

で、平成 26 年度の 288,237 千円と比較すると 13,286 千円の増加で、計画値 256,948 千円と比較すると 44,575 千円見込みを上回っていることがあげられます。なお、下水道使用料については、1,529,273 千円で、平成 26 年度の 1,524,824 千円と比較すると、4,449 千円の増加ですが、計画値 1,552,142 千円と比較すると 22,869 千円見込みを下回っています。

次に、支出については、1,595,638 千円で、平成 26 年度の約 1,580,661 千円と比較すると 14,977 千円の増加ですが、計画値 1,658,045 千円と比較すると 62,407 千円見込みを下回っています。計画値を下回った主な要因は、修繕費及び流域下水道維持管理負担金が計画値を下回ったことがあげられます。

評価・意見

- 下水道使用料においても、一人当たり平均有収汚水量の動向を十分注視するとともに、滞納対策を着実に実施することで、収入の確保に努めてください。
- 流域下水道維持管理負担金については、今後の負担必要額を的確に把握できるよう関係機関と十分調整してください。
- 修繕費について、管路や施設を長期間維持管理していくうえでは、適時適切に修繕を行うことが必要です。修繕必要箇所の的確な把握と滯りのない修繕の施行に努めてください。

(4) 施設整備状況

現状分析

「基本・実施計画」において平成 27 年度に実施することを予定されていた建設改良事業については、P.20 のとおりで、概ね計画通りの進捗状況となっています。

評価・意見

- 「基本・実施計画」に基づき、下水道施設・管路の点検調査と調査により明らかになる老朽箇所の計画的な更新を滞りなく実施してください。

(5) 企業債残高

現状分析

平成 27 年度における企業債の借入額は 77,100 千円で、平成 26 年度の 139,200 千円と比較すると、62,100 千円の減少で、計画値 135,200 千円と比較すると 58,100 千円見込みを下回っています。償還額は 415,179 千円で、平成 26 年度の 402,085 千円と比較すると、13,094 千円の増加で、ほぼ計画どおり推移しています。残高については、4,972,802 千円で、平成 26 年度残高 5,310,881 千円と比較すると 338,079 千円、計画値 5,055,393 千円と比較すると 82,591 千円圧縮されています。

評価・意見

○今後も引き続き、企業債の借り入れについては、元金償還額の範囲内とすることを遵守し、元金を減少させ、支払利息の軽減を図ってください。

(7) 資金残高

現状分析

平成 27 年度における資金残高は 3,319,578 千円で、平成 26 年度の 2,957,388 千円と比較すると 362,190 千円増加しており、計画値の 3,129,658 千円と比較すると 189,920 千円上回っています。

評価・意見

○今後も引き続き、健全経営に努め、将来の資金需要に備えてください。

5 その他個別意見

上記評価以外に評価委員としての個別意見を申し上げます。

○下水道事業については、雨水公費・汚水私費の原則から、収支については、汚水・雨水を区分して経営・事業の執行・分析・評価をしていくことが必要と考えます。

○水道・下水道事業は、技術の継承が必要です。今後、今の技術レベルを維持し続けていくために、長期的視点をもって人事配置を行うよう努めるとともに、少ない人員でも技術力を維持できるよう、直営と委託の守備範囲を見直すなど、あらゆる手立てを尽くして、技術力を維持できる方策を追求してください。

○水道事業における口径別納付金は、給水装置の新設やメータ一口径を大きくしようとする方に、水道施設の整備費の一部を負担していただくという趣旨からも、本来は、将来の施設整備などに必要な資本としてストックしていくべきものと考えます。決算や利益処分においては、このことを十分考慮してください。

○償却資産の取得や改良の際に充当した補助金等については、「長期前受金」として負債計上したうえで、営業外収益に各種の「長期前受金戻入」を設け、減価償却見合い分を順次収益化することとなっていますが、この「長期前受金戻入」は実際の資金を伴わない収入であることなども踏まえ、堅実な経営分析を行い、将来の更新需要のための資金を着実に確保できるよう健全経営に努めてください。

○施設、管路などの修繕は、定期的にやらなければなりません。そのために平成27年3月に策定された「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」においては、修繕料の推計も含む財政収支見通しが示されていますが、実際に修繕が必要となる箇所や必要経費を適時適切に把握し、的確に進捗管理を行ってください。

○箕面市の水道料金は高いといわれているそうですが、今後、他の市町村と同様、箕面市の上下水道事業においても、施設や管路の老朽化に伴う大規模な更新が必要となる時期を迎えます。水道料金や下水道使用料は、当該市町村の地勢や人口規模、産業構造など、様々な要因に影響を受けますが、箕面市においては、「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」により、施設・管路の耐震化・更新と維持管理を計画的に図ることを前提とした料金（使用料）であることをもっと利用者にPRをしていくべきと思います。

6 おわりに

今回は平成27年度決算について、計画値及び前年度決算数値と比較し評価しました。総合的な評価として改革は、概ね順調に進んでおり、水道事業、下水道事業いずれにおいても、現段階では、収入及び経費回収率とも良好な経営環境にあると言えます。

しかしながら、「人口見直し・下水道使用料値下げ後の箕面市上下水道施設整備基本・実施計画（平成28年度～平成46年度）」に記載されているように、

人口の減少と一人一日平均有収水量の減少により、水道事業の料金回収率は平成42年以降、100%を下回ることになると予想されます。従って、今後も引き続き、「箕面市上下水道施設整備基本・実施計画」に基づき、施設・管路の計画的かつ効果的・効率的な整備を図るとともに、収支動向については、短期的な観点だけではなく、長期的な観点からの的確な把握に努め、持続可能な健全経営に努めてください。

箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会

箕面市上下水道事業施設整備基本・実施計画評価委員

近畿大学経営学部教授 吉田 忠彦

大阪工業大学工学部環境工学科准教授 笠原 伸介

兵庫県立大学大学院会計研究科教授 瓦田 沙季

箕面市上下水道施設整備基本・実施計画進捗状況 (平成27年度)



**箕面市上下水道局
平成28年10月**

箕面市上下水道施設整備基本・実施計画の考え方

	経営改革プランから引き継いでいる 上下水道事業の「めざす姿」	「箕面市上下水道施設整備 基本・実施計画」における考え方
上水道	○料金(使用料)を値上げしない。 ○施設・管路の耐震化・更新事業を着実に実施するための資金を確保する。	現行料金の範囲内で ○料金回収率100%を維持する。 ○平成27年度以降の20年間で、施設・管路の耐震化・更新事業を着実に実施するための資金として、建設改良費約162億円を確保する。
下水道		平成28年度から引き下げを行った下水道使用料の範囲内で ○経費回収率100%を維持する。 ○平成27年度以降の20年間で、施設・管路の耐震化・長寿命化等を着実に実施するための資金として、建設改良費約185億円(うち汚水費用約151億円)を確保する。

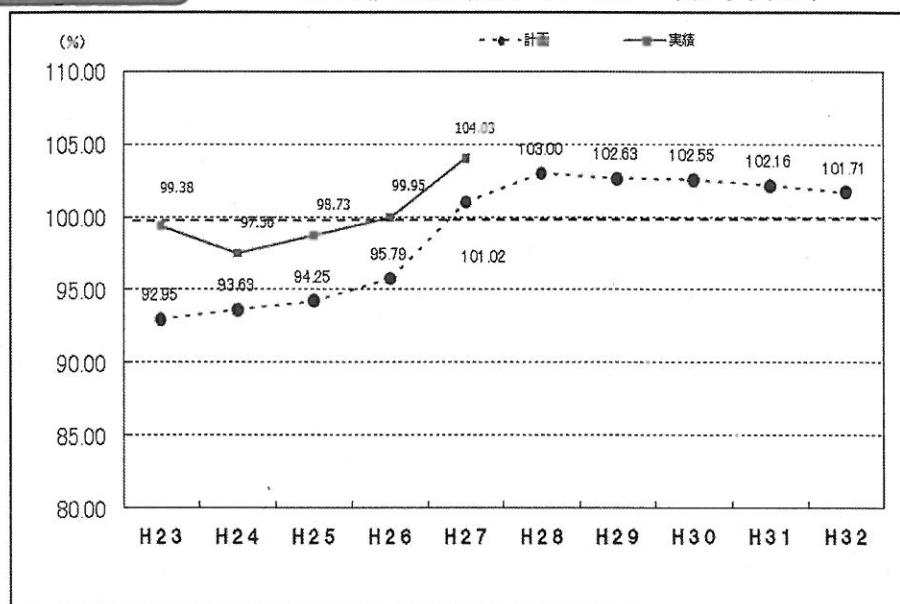
水道事業

業務量

項目	単位	計画①	実績②	比較(②-①)
給水人口	人	137,512	135,413	▲ 2,099
年間有収水量	千m ³	14,495	14,063	▲ 432
1人1日平均有収水量	リットル	288	284	▲ 4

料金回収率

注) H23～H26までの計画値は経営改革プランにおける計画値を記載している。(以下同じ)



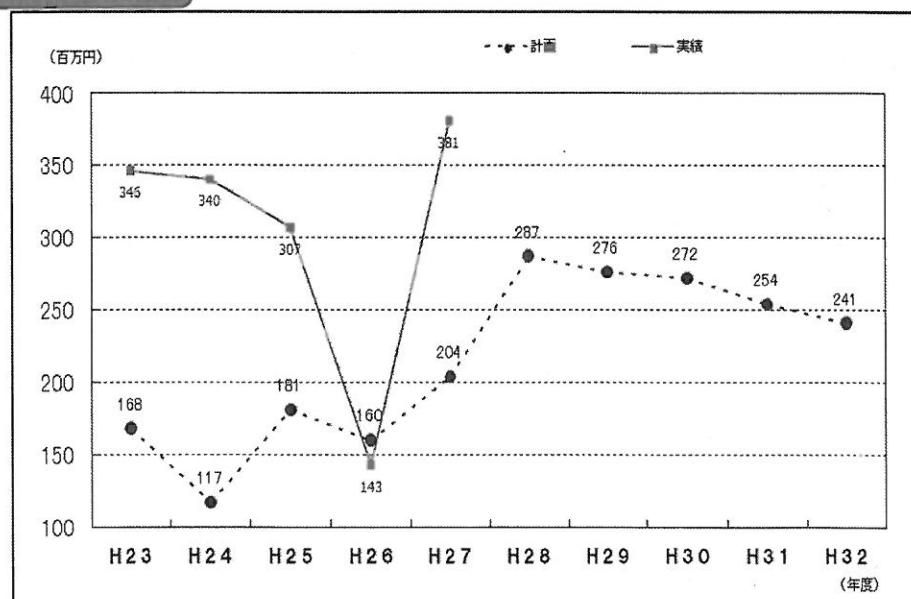
【進捗状況】

○平成27年度決算における料金回収率は、104.03%となり、逆さやを解消し、目標値を上回ることができました。

【今後の進め方】

○今後も引き続き、料金回収率100%の堅持に努めます。

損益



【進捗状況】

○平成27年度決算における利益は、381百万円となりました。

【今後の進め方】

引き続き、水道使用料の確保・経費の削減に努め、利益の確保を図ります。

施設整備状況

①計画との比較

(単位:億円)

整備内容	全体計画	平成27年度	
		計画	実績
①施設の統廃合	6.3	—	—
桜ヶ丘浄水場関連	(0.5)	—	—
千里浄水池関連	(5.8)	—	—
②配水区域再編成	2.2 1.9km	—	—
③受水・送水機能の強化	6.3 4.2km	—	—
④配水機能の強化	⑤に含む	—	—
⑤更新・耐震化	147.2	5.2	5.7
配水池の耐震化	(2.8) 3施設	(0.1) 1施設	(0.1) 1施設
機械・電気設備の更新	(46.6)	(2.3) 6件	(2.2) 6件
管路の更新・耐震化	(97.8) 108km	(2.8) 3.7km	(3.4) 3.5km
合計	162.0	5.2	5.7

②主な実施事業

工事・事業名	工事などの内容	金額(円)
瀬川4丁目地内ほか配水管改良工事(27)	Φ75~200mm L=810m	68,186,880
半町4丁目地内ほか配水管改良工事(27)	Φ75~100mm L=664m	49,880,880
桜井1丁目地内ほか配水管改良工事(27)	Φ75~300mm L=981m	94,137,120
稻5丁目地内ほか配水管改良工事(27)	Φ75~150mm L=629m	51,304,320
箕面2丁目地内ほか配水管改良工事(27)	Φ75~150mm L=372m	32,956,200
箕面浄水場膜モジュール取替工事	膜モジュール(18本:1ユニット分)取替	23,045,040
坊島受水場他受水弁取替工事	電動受水弁Φ400mm 2台、電動流出弁Φ150mm 1台	19,440,000
坊島受水場No.1受水池内部補修工事	池内部補修及び防水塗装	73,190,520

■業務量

項目		平成27年度				対前年度比較	
		計画①	実績②	比較 (②-①)	比率% (②/①×100)	平成26年度 ③	比較 (②-③)
給水人口	人	137,512	135,413	△ 2,099	98.47	135,021	392
年間有収水量	千m ³	14,495	14,063	△ 432	97.02	14,054	9
1人1日平均有収水量	ℓ	288	284	△ 4	98.61	285	△ 1

■収支関係(収益的収支)

(単位 千円)

項目		平成27年度				対前年度比較	
		計画①	決算②	比較 (②-①)	比率% (②/①×100)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
給水収益	△	2,373,261	2,333,854	△ 39,407	98.34	2,337,901	△ 4,047
納付金	△	97,340	164,030	66,690	168.51	146,020	18,010
その他営業収益ほか	△	120,070	123,522	3,452	102.87	121,287	2,235
収入合計	a	2,590,671	2,621,406	30,735	101.19	2,605,208	16,198
人件費	△	287,836	263,353	△ 24,483	91.49	361,685	△ 98,332
動力費	△	107,920	104,269	△ 3,651	96.62	104,941	△ 672
受水費	△	956,908	934,270	△ 22,638	97.63	931,840	2,430
委託料	△	223,580	211,556	△ 12,024	94.62	167,562	43,994
工事請負費	△	68,079	67,669	△ 410	99.40	79,290	△ 11,621
減価償却費	△	412,073	404,954	△ 7,119	98.27	355,943	49,011
支払利息	△	80,087	78,713	△ 1,374	98.28	86,616	△ 7,903
その他	△	249,583	175,289	△ 74,294	70.23	374,107	△ 198,818
支出合計	b	2,386,066	2,240,073	△ 145,993	93.88	2,461,984	△ 221,911
当年度純損益	a - b	204,605	381,333	176,728	186.38	143,224	238,109

■収支関係(資本的収支)

(単位 千円)

項目		平成27年度				対前年度比較	
		計画①	決算②	比較 (②-①)	比率% (②/①×100)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
企業債	△	250,000	250,000	0	100.00	100,000	150,000
国庫補助金	△	0	0	0	-	0	0
その他収入	△	11,211	4,285	△ 6,926	38.22	736,590	△ 732,305
収入合計	c	261,211	254,285	△ 6,926	97.35	836,590	△ 582,305
建設改良費	△	522,000	499,215	△ 22,785	95.64	933,859	△ 434,644
企業債償還金	△	324,244	324,243	△ 1	100.00	312,567	11,676
その他経費	△	170,786	108,139	△ 62,647	63.32	263,837	△ 155,698
支出合計	d	1,017,030	931,597	△ 85,433	91.60	1,510,263	△ 578,666
不足財源	d - c	△ 755,819	△ 677,312	78,507	89.61	△ 673,673	△ 3,639

損益勘定留保資金	△	421,953	416,324	△ 5,629	98.67	527,934	△ 111,610
繰越工事資金	△	0	0	0	-	0	0
減債積立金	△	100,000	100,000	0	100.00	0	100,000
建設改良積立金	△	192,140	124,065	△ 68,075	64.57	117,549	6,516
消費税資本的収支調整額	△	41,726	36,923	△ 4,803	88.49	28,190	8,733
補てん財源計	d	755,819	677,312	△ 78,507	89.61	673,673	3,639

■資金残高と企業債残高

(単位 千円)

項目	平成27年度				対前年度比較	
	計画①	決算②	比較 (②-①)	比率% (②/①×100)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
資金残高	1,593,367	1,944,795	351,428	122.06	1,787,528	157,267
企業債借入額	250,000	250,000	0	100.00	100,000	150,000
企業債償還額	324,244	324,243	△ 1	100.00	312,566	11,677
企業債残高	3,315,745	3,315,746	1	100.00	3,389,990	△ 74,244

■その他項目

項目	平成27年度				対前年度比較	
	計画①	決算②	比較 (②-①)	比率% (②/①×100)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
年間有収水量(千m ³)	14,495	14,063	△ 432	97.02	14,054	9
料金単価(円)	e	161.41	163.55	2.14	101.33	164.00
給水原価(円)	f	159.78	157.22	△ 2.56	98.40	164.08
料金回収率(%)	e/f ×100	101.02	104.03	3.01	102.98	99.95
						4.08

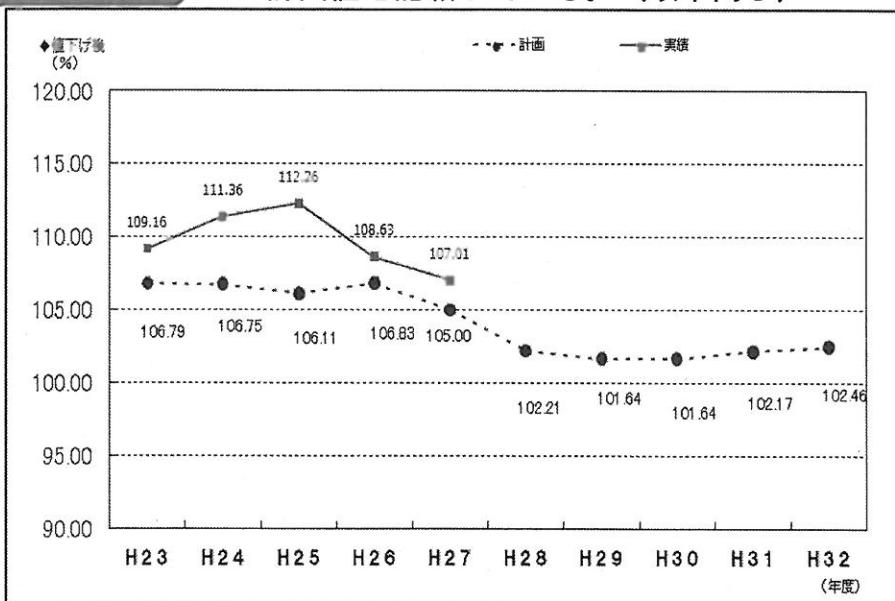
下水道事業

業務量

項目	単位	計画①	実績②	比較(②-①)
水洗化人口	人	137,421	135,291	▲ 2,130
年間有収汚水量	千m ³	14,513	14,133	▲ 380
1人1日平均汚水量	リットル	288	285	▲ 3

経費回収率

注) H23～H26までの計画値は経営改革プランにおける計画値を記載している。(以下同じ)



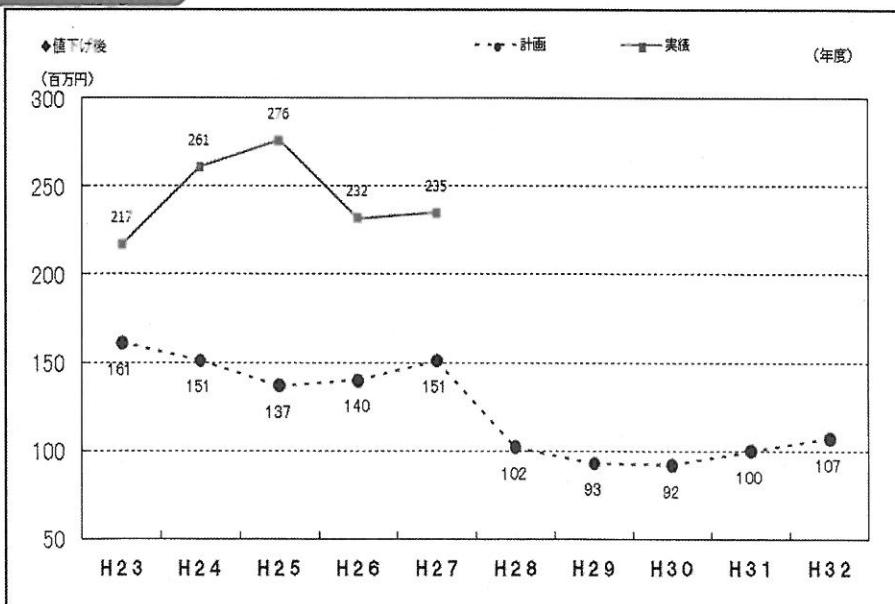
【進捗状況】

○平成27年度決算の経費回収率は、107.07%となり、目標値を上回っています。

【今後の進め方】

平成28年4月に下水道使用料の引き下げを実施していますが、引き続き経費回収率100%以上の堅持に努めます。

損益



【進捗状況】

○平成27年度決算における利益は、235百万円となりました。

【今後の進め方】

引き続き、下水道使用料の確保・経費の削減に努めます。

施設整備状況

①計画との比較（流域下水道建設負担金除く）

(単位:億円)

整備内容	全体計画	平成27年度	
		計画	実績
①管路の長寿命化	76.7	1.5	1.2
汚水管路の調査	(10.9)336km	(0.7)14.6km	(0.4)20.6km
汚水管路の工事	(44.6)44km	(0.7) 0.5km	(0.7) 0.7km
雨水管路の調査	(3.8)117km	(0.1) 4.3km	(0.1) 4.3km
雨水管路の工事	(17.4)15km	—	—
②管路の耐震化	36.0	0.9	0.9
汚水管路の調査	(2.6)81km	(0.8)19.4km	(0.8)19.5km
汚水管路の工事	(20.5)16km	—	—
雨水管路の調査	(1.1)30km	(0.1)0.2km	(0.1)0.4km
雨水管路の工事	(11.8)8km	—	—
③萱野污水ポンプ場	16.0	0.1	0.1
合 計	128.7	2.5	2.2

②主な実施事業

区分	工事・事業名	工事などの内容	金額（円）
汚水	平成27年度公共下水道 (桜井排水区長寿命化) 管路更生工事	桜井排水区の管路寿命化のため管更生を実施 管更生 φ250mm L=449m φ300mm L=53m	42,695,640
	平成27年度公共下水道 (桜井排水区長寿命化) 改築工事	桜井排水区の管路長寿命化のため改築を実施 改築 φ250mm L=159m φ300mm L=57m	26,936,280
	公共下水道(桜井排水区) 管路更生実施設計委託	桜井排水区の管路長寿命化のため工事の設計を実施 実施設計 L=665m	7,560,000
污水 雨水	箕面市公共下水道長寿命化対策管路調査委託	管路長寿命化のため調査を実施 調査 L=20,426m	41,752,800
污水	箕面市公共下水道長寿命化対策管路調査委託その2	管路長寿命化のため調査を実施 調査 L=4,566m	10,562,400
污水 雨水	箕面市公共下水道地震対策管路調査委託	管路耐震化のため調査を実施 調査 L=19,922m	45,673,200
	箕面市公共下水道地震対策耐震診断・実施設計委託	管路耐震化のため耐震診断と工事の設計を実施 診断 L=19,922m 設計 L=3,703m	39,960,000

■業務量

項目	平成27年度				対前年度比較	
	計画①	実績②	比較 (②-①)	比率% (②/①×100)	平成26年度 ③	比較 (②-③)
水洗化人口	人	137,421	135,291	△ 2,130	98.45	134,899 392
年間有収汚水量	千m ³	14,513	14,133	△ 380	97.38	14,091 42
1人1日平均有収汚水量	ℓ	288	285	△ 3	98.96	286 △ 1

■収支関係(収益的収支)

項目	平成27年度				対前年度比較	
	計画①	決算②	比較 (②-①)	比率 (②/①×100)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
下水道使用料	1,552,142	1,529,273	△ 22,869	98.53	1,524,824	4,449
その他負担金ほか	256,948	301,523	44,575	117.35	288,237	13,286
収入合計	a	1,809,090	1,830,796	21,706	1,813,061	17,735
人件費	73,667	79,105	5,438	107.38	68,284	10,821
動力費	10,620	9,694	△ 926	91.28	9,463	231
修繕費	28,853	16,514	△ 12,339	57.23	27,122	△ 10,608
委託料	83,433	72,226	△ 11,207	86.57	66,063	6,163
工事請負費	84,630	81,747	△ 2,883	96.59	48,363	33,384
流域維持管理負担金	521,268	495,525	△ 25,743	95.06	494,812	713
減価償却費	608,540	616,741	8,201	101.35	613,982	2,759
支払利息	129,482	128,285	△ 1,197	99.08	141,840	△ 13,555
その他	117,552	95,801	△ 21,751	81.50	110,732	△ 14,931
支出合計	b	1,658,045	1,595,638	△ 62,407	96.24	1,580,661 14,977
当年度純損益	a - b	151,045	235,158	84,113	155.69	232,400 2,758

■収支関係(資本的収支)

項目	平成27年度				対前年度比較	
	計画①	決算②	比較 (②-①)	比率 (②/①×100)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
企業債	135,200	77,100	△ 58,100	57.03	139,200	△ 62,100
国庫補助金	86,800	89,000	2,200	102.53	41,000	48,000
他会計繰入金ほか	79,805	75,179	△ 4,626	94.20	69,164	6,015
収入合計	c	301,805	241,279	△ 60,526	79.95	249,364 △ 8,085
建設改良費	242,247	223,418	△ 18,829	92.23	149,086	74,332
流域建設負担金	106,288	61,491	△ 44,797	57.85	70,843	△ 9,352
企業債償還金	415,184	415,179	△ 5	100.00	402,085	13,094
その他経費	35,517	42,674	7,157	120.15	33,326	9,348
支出合計	d	799,236	742,762	△ 56,474	92.93	655,340 87,422
不足財源	d - c	△ 497,431	△ 501,483	△ 4,052	100.81	△ 405,976 △ 95,507

損益勘定留保資金	484,376	490,606	6,230	101.29	390,470	100,136
繰越工事資金	0	0	0	-	5,406	△ 5,406
減債積立金	0	0	0	-	0	0
建設改良積立金	0	0	0	-	0	0
消費税資本的収支調整額	13,055	10,877	△ 2,178	83.32	10,100	777
補てん財源計	d	497,431	501,483	4,052	100.81	405,976 95,507

■企業債残高

項目		平成27年度				対前年度比較	
		計画①	決算②	比較 (②-①)	比率 (②/①)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
資金残高		3,129,658	3,319,578	189,920	106.07	2,957,388	362,190
企業債借入額		135,200	77,100	△ 58,100	57.03	139,200	△ 62,100
企業債償還額		415,184	415,179	△ 5	100.00	402,085	13,094
企業債残高		5,055,393	4,972,802	△ 82,591	98.37	5,310,881	△ 338,079

■その他項目

項目		平成27年度				対前年度比較	
		計画①	決算②	比較 (②-①)	比率 (②/①)	平成26年度 決算③	比較 (②-③)
年間有収汚水量(千m ³)	△	14,513	14,133	△ 380	97.38	14,091	42
使用料単価(円)	e	106.95	108.21	1.26	101.18	108.21	0.00
処理原価(円)	f	101.86	101.12	△ 0.74	99.27	99.61	1.51
経費回収率(%)	e/f ×100	105.00	107.01	2.01	101.92	108.63	△ 1.62

**人口見直し・下水道使用料値下げ後の
箕面市上下水道施設整備基本・実施計画
(平成28年度～平成46年度)**

水需要予測

平成 15 年度（2003 年度）～26 年度（2014 年度）の実績値及び市で作成した人口推計を用いて、最終年度である平成 46 年度（2034 年度）までの給水人口及び配水量を予測した。

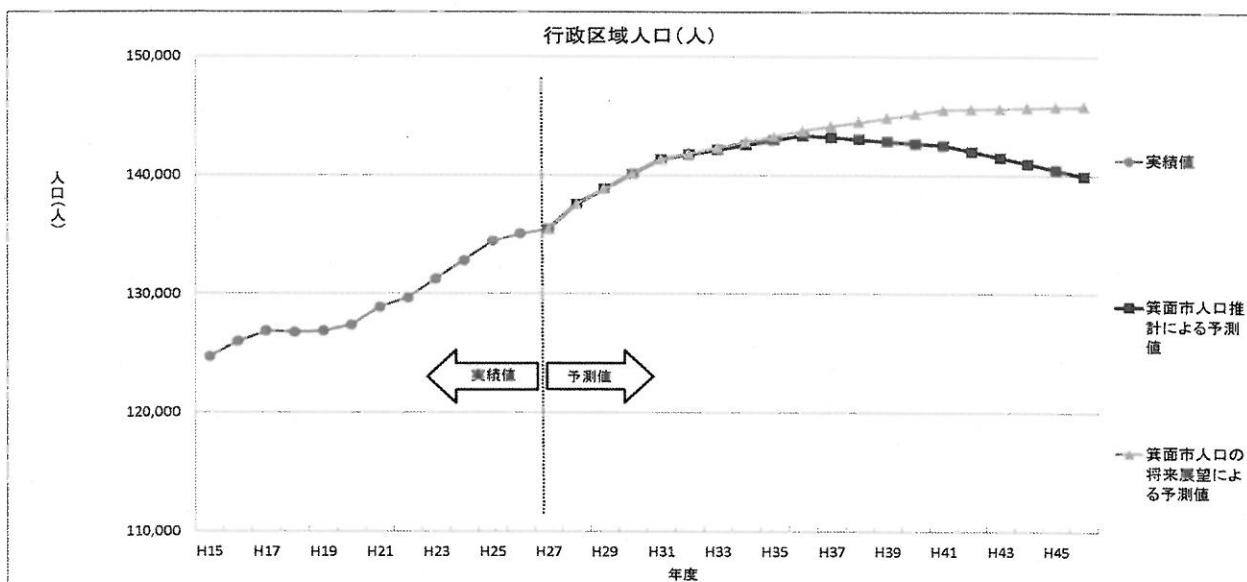
（1）給水人口

将来の給水人口は、市で推計した最新の行政区域内人口の予測値「箕面市人口推計」及び「箕面市人口の将来展望」のうち、「箕面市人口推計」に基づいて設定した。

①行政区域人口

※箕面市人口推計・・・過去から現在までの人口動向分析と、このまま現在の状況や施策がそのまま続いた場合の将来における推計人口

※箕面市人口の将来展望・・・まち・ひと・しごと創生法に基づく「箕面市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 27 年 10 月策定）に盛り込む施策等による人口増加策を講じ、その結果めざそうとする、いわば目標としての将来展望人口



■実績値

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
実績値	124,729	125,982	126,848	126,783	126,863	127,402	128,902	129,678	131,267	132,823	134,454	135,063	135,455

■予測値

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
箕面市人口推計による予測値 (人)	137,573	138,828	140,083	141,338	141,739	142,140	142,541	142,942	143,343	143,176	143,009	142,842	142,675
箕面市人口の将来展望による予測値 (人)	137,573	138,828	140,083	141,338	141,821	142,304	142,787	143,270	143,751	144,104	144,457	144,810	145,163
年度	H41	H42	H43	H44	H45	H46							
箕面市人口推計による予測値 (人)	142,509	141,996	141,483	140,970	140,457	139,942							
箕面市人口の将来展望による予測値 (人)	145,516	145,569	145,622	145,675	145,728	145,781							

給水人口

「箕面市人口推計」に基づく推計結果は以下のとおりである。

■実績値

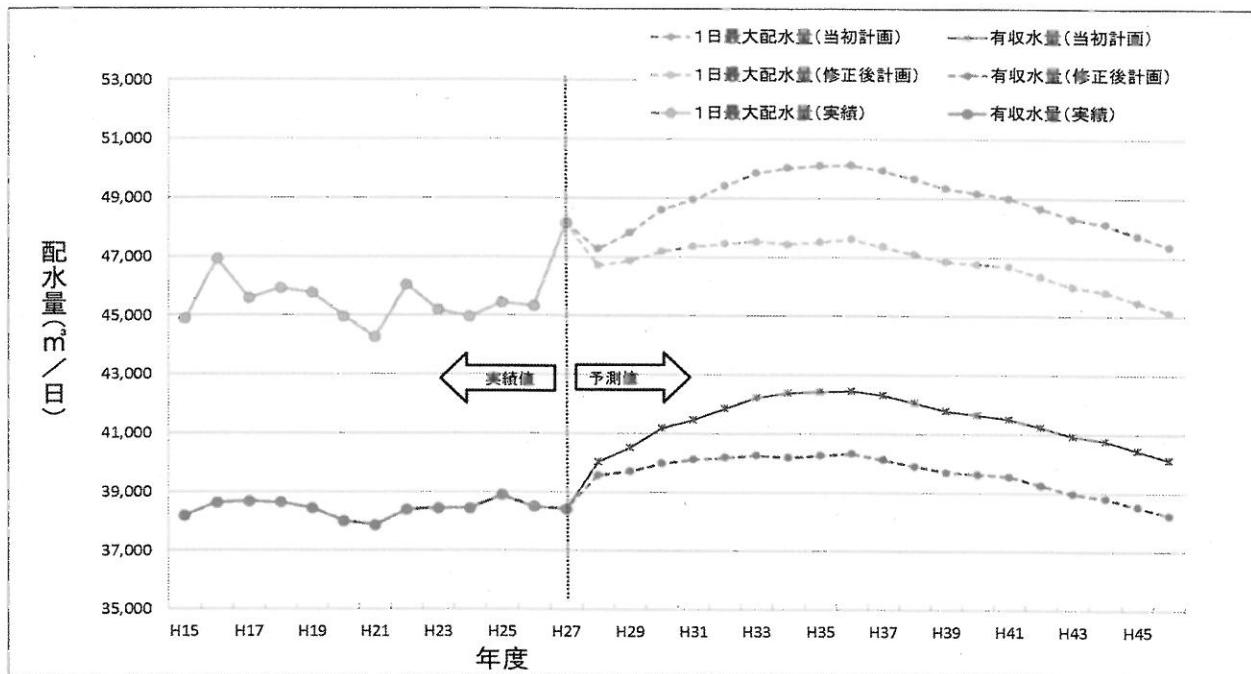
年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
給水人口	124,644	125,898	126,763	126,699	126,779	127,318	128,818	129,594	131,183	132,739	134,412	135,021	135,413

■予測値

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
給水人口	137,503	138,763	140,021	141,279	141,685	142,089	142,493	142,899	143,303	143,141	142,977	142,814	142,652
年度	H41	H42	H43	H44	H45	H46							
給水人口	142,488	141,978	141,469	140,959	140,445	139,932							

(2) 配水量

配水量については、給水人口と同様に当面は増加が見込まれるが、トイレ、食器洗い乾燥機及び洗濯機等節水型水使用機器の普及により、その傾向は緩やかになると予測している。



■実績値

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
有収水量	38,191	38,624	38,673	38,642	38,444	38,000	37,862	38,397	38,443	38,442	38,889	38,504	38,422
1日平均配水量	39,909	40,300	40,259	40,553	40,470	39,726	39,561	39,487	39,495	39,456	39,898	39,508	39,415
1日最大配水量	44,889	46,920	45,587	45,920	45,776	44,968	44,264	46,049	45,183	44,963	45,445	45,342	48,145

■予測値

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
有収水量	39,566	39,702	39,979	40,116	40,186	40,255	40,184	40,253	40,323	40,112	39,899	39,686	39,618
1日平均配水量	41,045	41,187	41,472	41,615	41,688	41,759	41,685	41,757	41,830	41,611	41,390	41,169	41,099
1日最大配水量	46,712	46,873	47,197	47,360	47,443	47,524	47,439	47,521	47,604	47,355	47,103	46,852	46,772
年度	H41	H42	H43	H44	H45	H46							
有収水量	39,546	39,254	38,961	38,810	38,518	38,228							
1日平均配水量	41,024	40,722	40,418	40,260	39,958	39,657							
1日最大配水量	46,687	46,344	45,997	45,818	45,474	45,131							

水道事業の財政収支見通し（収益的収支）

【分析・評価】

- 収入は、平成27年度（2015年度）から平成35年度（2023年度）まで増加。平成36年度（2024年度）以後は、緩やかに減少傾向に転じる見込み。
- 支出については、施設・管路整備による減価償却費が増加するため、支出全体として増加する。
- 料金回収率は、平成27年度（2015年度）から平成41年度（2029年度）までは100%以上で推移する見込み。平成42年度（2030年度）以後は100%以下で推移する見込み。

(単位:百万円)

区分	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
収益的収入	①	2,672	2,677	2,691	2,697	2,692	2,693	2,685	2,709	2,681	2,668	2,655	2,647	2,635	2,629	2,609	2,596	2,579	2,560
給水収益		2,420	2,429	2,445	2,460	2,458	2,462	2,458	2,469	2,466	2,453	2,440	2,434	2,424	2,419	2,402	2,390	2,375	2,357
納付金		123	121	118	109	106	103	100	112	87	86	85	83	82	79	78	76	75	73
その他収益(運営手形)		129	127	128	128	128	127	128	128	129	129	128	128	128	128	128	128	128	128
収益的支出	②	2,385	2,401	2,419	2,443	2,451	2,454	2,461	2,472	2,479	2,461	2,480	2,436	2,434	2,451	2,447	2,468	2,491	2,500
人件費		268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268	268
動力費		119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119
受水料		969	972	979	985	984	986	984	988	982	977	974	970	968	961	956	950	936	936
委託料		221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221	221
工事請負費		77	77	77	75	75	75	75	75	60	37	37	37	37	37	42	42	42	42
減価償却費		430	449	465	485	500	506	511	519	542	553	576	534	534	550	547	570	599	624
支払利息		74	69	64	62	59	55	60	58	58	59	60	62	64	67	70	72	74	74
その他		227	226	226	225	224	223	224	224	223	223	223	224	224	222	222	220	216	216
当年度純利益	①-②	287	276	272	254	241	239	224	237	202	207	175	211	201	178	162	128	88	60

★料金回収率

区分	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
料金回収率	%	103.00	102.63	102.55	102.16	101.71	101.24	100.87	101.10	99.77	101.34	100.99	100.09	99.50	98.15	96.57	95.52	94.59	

水道事業の財政収支見通し（資本的収支）

【分析・評価】

○建設改良費用は、年平均約8・1億円の見込み。

○建設改良投資を進めていく財源としては、収入として企業債の借り入れに加え、その他支出(に不足する財源については、損益勘定留保資金、減債積立金、建設改良積立金などを充当することで補填が可能

○平成46年度（2034年度）の企業債残高については、平成27年度（2015年度）企業債残高と比較すると675百万円増加

区 分		H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	H 3 8	H 3 9	H 4 0	H 4 1	H 4 2	H 4 3	H 4 4	H 4 5	H 4 6
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
資本的収入	①	302	263	397	324	305	339	353	348	273	315	326	310	332	347	365	451	457	232	232
企業債		266	254	368	315	263	330	344	339	264	306	317	301	323	338	356	356	327	223	223
国庫補助金		27	0	20	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86	121	0	0
その他収入		9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
資本的支出	②	1,305	1,257	1,642	1,460	1,299	1,110	1,125	1,321	1,002	1,103	1,237	859	940	692	1,258	1,373	1,288	758	1,071
建設改良費		888	845	1,227	1,050	877	699	745	929	679	819	957	604	677	427	986	1,088	990	445	744
企業債償還金		330	324	333	333	345	334	303	316	247	207	203	178	186	188	196	208	221	236	250
その他費用		87	88	82	77	77	77	76	76	77	77	77	77	77	76	77	77	77	77	
不足財源	②-①	1,003	994	1,245	1,136	994	771	772	973	729	788	911	549	608	345	893	922	831	526	839
補填財源		1,003	994	1,245	1,136	994	771	772	973	729	788	911	549	608	345	893	922	831	526	839
損益勘定留保資金		424	441	457	477	491	496	501	509	532	542	565	489	541	303	785	558	585	482	735
減債積立金		150	150	200	100	20	20	20	20	20	10	10	0	0	0	0	10	0	10	
建設改良積立金		362	319	468	454	399	186	177	353	111	155	241	0	0	0	11	254	150	0	20
当期収支本や取扱負担額		68	84	120	105	84	69	74	92	67	81	95	60	67	42	98	100	86	44	74

★企業債残高

区 分		H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5	H 3 6	H 3 7	H 3 8	H 3 9	H 4 0	H 4 1	H 4 2	H 4 3	H 4 4	H 4 5	H 4 6
		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
企業債残高		3,251	3,181	3,216	3,198	3,116	3,153	3,112	3,176	3,193	3,292	3,406	3,529	3,666	3,816	3,977	4,125	4,231	4,218	4,191
資金残高		1,467	1,273	877	578	400	434	461	324	395	438	606	789	1,202	1,103	968	896	1,080	962	

(単位:百万円)

下水道事業の財政収支見通し（収益的収支） 値下げ後

【分析・評価】

○使用料収入は、平成27年度（2015年度）から平成35年度（2023年度）まで増加。平成36年度（2024年度）以後緩やかに減少傾向に転じる見込み。

○当年度純損益については、黒字で推移する見込み。

○経費回収率は、平成46年度（2034年度）まで100%以上を確保する見込み。

(単位:百万円)

区分	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	
収益的収入	①	1,754	1,758	1,766	1,776	1,786	1,787	1,799	1,793	1,791	1,786	1,785	1,780	1,779	1,770	1,764	1,754	1,742	1,729	
下水道使用料		1,495	1,503	1,512	1,521	1,527	1,530	1,534	1,532	1,532	1,524	1,516	1,512	1,505	1,502	1,499	1,483	1,473	1,462	1,451
その他負担金ほか		259	255	254	255	259	257	259	265	261	267	270	273	275	277	271	281	280	278	
収益的支出	②	1,652	1,665	1,674	1,676	1,679	1,685	1,684	1,693	1,687	1,683	1,685	1,687	1,681	1,678	1,671	1,641	1,635	1,618	1,562
人件費		74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	74	
動力費		12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	0	0	0	
修繕費		29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
委託料		83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	
工事請負費		48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	
流域維持管理会員料金		534	569	572	565	560	561	560	562	560	556	553	552	545	540	535	543	542	540	
減価償却費		644	634	648	664	678	689	693	704	702	704	711	716	719	723	722	728	724	708	655
支払利息		116	104	96	89	83	77	73	69	67	65	63	61	59	57	56	54	53	51	
その他		112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	
当年度純損益	①-②	102	93	92	100	107	102	106	108	101	98	99	101	99	123	119	124	167		

★経費回収率

区分	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46
合計回収率	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
%	102.21	101.64	101.64	102.17	102.46	102.15	102.00	102.34	102.24	102.01	101.22	100.80	100.65	100.60	100.20	101.64	101.23	101.53	104.79

下水道事業の財政収支見通し（資本的収支） 値下げ後

【分析・評価】

- 建設改良費用（流域下水道建設負担金を含む）は、年平均約9．2億円の見込み。
- 建設改良投資を進めていく財源としては、収入として企業債の借り入れと国庫補助金、その他支出に不足する財源については、損益勘定留保資金ほかを補填財源とすることで、財源確保は可能
- 平成46年度（2034年度）の企業債残高は3,454百万円と見込まれ、平成27年度（2015年度）当初と比較すると1,577百万円減少する見込み。

(単位:百万円)

区分	H28 H29 H30 H31 H32 H33 H34 H35 H36 H37 H38 H39 H40 H41 H42 H43 H44 H45 H46																				
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034		
資本的収入	①	465	773	977	979	714	699	673	898	855	680	645	577	725	709	601	794	573	670	706	
企業債		141	282	324	324	220	243	259	311	311	248	248	208	226	226	226	226	258	240	258	258
国庫補助金		176	358	470	467	334	247	243	368	368	294	294	222	238	339	339	257	341	178	254	254
他会計繰入金ほか		148	133	183	188	160	209	171	219	176	138	175	131	160	144	118	195	155	158	194	
資本的支出	②	1,264	1,526	1,779	1,785	1,600	1,434	1,311	1,621	1,566	1,427	1,317	1,255	1,534	1,521	1,337	1,583	1,164	1,402	1,421	
建設改良費		625	815	1,040	1,033	899	723	586	835	835	743	637	576	823	859	679	904	486	718	754	
(その他工事費)		71	99	142	156	103	114	131	177	134	85	85	85	132	92	92	121	121	124	114	
済む工事費負担金		120	170	170	170	180	180	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	
企業債償還金		404	397	383	372	364	353	350	344	333	335	335	330	329	314	306	302	294	293	296	289
その他費用		44	45	44	54	64	64	65	64	64	65	65	65	65	64	64	64	64	64	64	
不足財源	②-①	799	753	802	806	886	735	638	723	711	747	672	678	809	812	736	789	591	732	715	
補填財源		799	753	802	806	886	735	638	723	711	747	672	678	809	812	736	789	591	732	715	
損益勘定留保資金		754	699	739	742	825	684	594	666	654	693	624	633	749	751	682	726	548	675	659	
済む債務積立金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
建設改良積立金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
消費税(本州)貢献額		45	54	63	64	61	51	44	57	57	54	48	45	60	61	54	63	43	57	56	

(単位:百万円)

区分	H28 H29 H30 H31 H32 H33 H34 H35 H36 H37 H38 H39 H40 H41 H42 H43 H44 H45 H46																			
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	
企業債残高	4,653	4,594	4,546	4,402	4,292	4,201	4,168	4,146	4,059	3,977	3,856	3,768	3,688	3,612	3,576	3,523	3,485	3,454		
資金残高	3,194	3,225	3,230	3,255	3,219	3,330	3,534	3,682	3,840	3,961	4,151	4,335	4,407	4,483	4,626	4,754	5,051	5,213	5,381	

★企業債残高